

# まちたんぽ 街散歩

江戸時代、「江戸四宿」のひとつに数えられた品川宿。古くから漁業と海運で栄えた湊町は、東海道第一宿として、また、庶民に人気の行楽地として、多くの人々で賑わったという。時は流れ、現代の品川は、海が埋め立てられ、高層ホテルやマンション、オフィスビルが建ち並ぶ。消えゆく昔の面影を求め、かつての宿場町・品川を歩く。

# 品川

# 東海道を歩く

東海七福神 恵比須(荏原神社)



荏原神社  
寒緋桜

◀709年に、藤原伊勢人がこの地へ貴布禰明神を勧請したのがはじまりと伝えられる、南品川の総鎮守・荏原神社。御神輿を海に繰り出す勇壮な「かっぱ祭」が有名。同神社の寒緋桜は、区内で最も早く見られる桜として親しまれている。

# まちたんぽ 品川 街散歩



品川浦舟だまり

▲漁業と海運で栄えた「湊町・品川」を偲ばせる舟だまり。現在は、屋形船の停泊場所となっている。対岸には古い民家の家並みが残されているが、周囲にはマンションが建設され、年々、このような光景が少なくなっていくのは寂しい限りだ。

品川駅前第一京浜(国道15号)を南に行くと、ほどなく八ツ山橋に出る。江戸時代には、この前方に八ツ山と呼ばれる丘があり、東海道はその東側を通っていたという。橋の上からは、駅東口に建設中の超高層マンションや大型ビルが間近に見える。そのスケールの大きさには、ただ圧倒されるばかりだ。

橋を渡り、八ツ山通りを下ると、品川浦の舟だまりが見えてくる。水辺には、古い民家の家並みが今でも残り、湊町・品川の面影をかいま見ることができる。舟だまりの奥にある小さな神社は、利田神社だ。昔は、ここが目黒川河口の突端であり、品川沖を航行する船の格好の目印になっていたという。今では、海が埋め立てられ、周囲には住宅が建ち並び、境内の鯨塚だけが当時を偲ばせてくれる。

ここで、八ツ山通りと並行して走る旧東海道ヘルートを変更してみる。現在、北品川商店街となっているこの通りには、あちこちで横丁の由来を記した看板や他の宿場町から譲り受けた松の木などを見ることができる。横丁の一つ、虚空蔵横丁を通り、住宅街の真ん中にある養願寺の虚空蔵菩薩にお参りする。

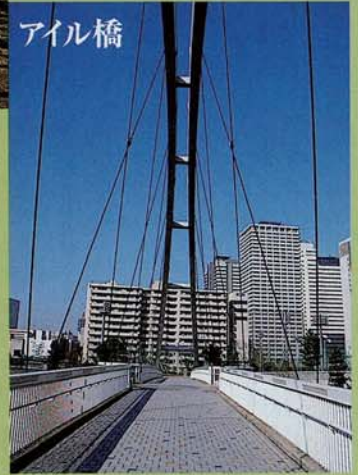
そこから、八重桜の並木を通して、小高い丘の上にある品川神社へ。龍の彫刻が施された大鳥居をくぐり、長い石段を上って振り返ると、かつての品川宿から天王洲アイルまで一望することができる。下から吹き上げてくる風も心地いい。しばらく、境内を散策した後、海を見に行くことにした。➤



## 天王洲の鯨

◀1798年5月、暴風雨のため、天王洲に迷い込んだ9間(16m)の鯨を、周辺の漁師たちが総出で捕えた。この話は江戸市中で大評判となり、ついには將軍も見物したという。これにちなみ、天王洲の東品川海上公園には、鯨の形の滑り台が置かれている。

### アイル橋



## 品川神社

◀▼丘の上に鎮座する北品川の総鎮守・品川神社。6月の大祭は「北の天王祭り」と呼ばれ、53段の石段を神輿が上り下りする様が見もの。境内には、都内では上野東照宮の鳥居に次いで古いといわれる明神鳥居や、富士山をかたどった富士塚がある。



### 洋行帰りの鐘



### ほんせんじ 品川寺

▶区内最古の寺で、旧東海道に面して、江戸六地藏(第1番)が鎮座する。境内には、1867年にパリの万国博覧会に出品された後、行方不明となり、1930年にジュネーブから戻ってきた「洋行帰りの鐘」と呼ばれる梵鐘や、樹齢約600年の大イチョウがある。

### 品川 神社境内



### 水盤の河童

◁山手通りから芝浦運河にかかる新東海橋を渡ると、天王洲である。ついさっき、品川神社から遠くに見えた天王洲の高層ビル群が、今自分の目の前にある。なんだか不思議な気分だ。一番南にある東品川海上公園で面白いものを見つけた。“鯨”である。江戸時代に天王洲に迷い込んだ鯨を、現代の天王洲に「滑り台」としてよみがえらせたものだ。音声ガイドがこの話を案内するという、オマケ付きである。

アイル橋を渡り、再び旧東海道を目指す。途中、かっぱ祭で有名な荏原神社に立ち寄ると、神社の境内が濃いピンク色で埋め尽くされている。自分が別世界にいるような錯覚に見舞われ、ボーっとしていると、「これは冬に咲く寒緋桜よ」と親切な人が教えてくれた。普通の桜よりも早く長く咲く花で、今年は例年より10日ほど早咲きなのだという。神社を訪れる人々の歓声とメジロのさえずりを背中に聞き、再び旧東海道へ歩を進める。

いくつかのお寺を見学し、夕暮れの品川寺へ。銅製の大きな地藏菩薩「江戸六地藏」に見守られながら、門をくぐる。「洋行帰りの鐘」と呼ばれる梵鐘は、パリから約60年かかって、やっとこの寺へ戻ったものだという。境内には樹齢600年の大イチョウもあり、ここだけ何か、特別な時間が流れているような気がした。今回は、日没と共に、心静かに散歩を終えた。

参考文献:「江戸・東京 歴史の散歩道3」(街とくら社)、「東海道品川宿まち歩きマップ」(旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会)



▲ここは、かつては目黒川河口の突端で、漁師町の守護神である弁財天がまつられ、洲崎弁天とも呼ばれていた。海に突き出た弁天堂は、安藤広重の浮世絵にも描かれている。境内の「鯨塚」には、1798年に天王洲で捕えられた鯨の骨が埋められた。